

未来につなぐ“都市型地縁” コミュニティの担い手の想い 7

「地域コミュニティの担い手養成塾」

中央区区民部地域振興課 & NPO法人 CRファクトリー



Contents

中央区「地域コミュニティの担い手養成塾」①
NPO法人 CRファクトリー

担い手インタビュー ④
自分たちで自分たちの街を守る～消防団で活動して～
志岐 宣子 / 京橋消防団 団本部 部長 / 養成塾7期生

コロナ禍で中央区観光協会特派員に
日紫喜 建 / 中央区観光協会特派員 / 養成塾8期生

コミュニティはなぜ大切か / 地縁の進化の方向性 ⑧
NPO法人 CRファクトリー



中央区 「地域コミュニティの 担い手養成塾」

NPO 法人 CR ファクトリー



会や自治会をはじめとした地域コミュニティの活動と運営を担う人たちの学びの場をつくり、中央区の地域を盛り上げるキーパーソンを養成する、全六回の連続講座。

「地域コミュニティの担い手養成塾」は、中央区地域振興課とコミュニケーション運営支援の専門家・NPO 法人 CR ファクトリーとの“協働事業”として平成二十七年度からスタートしました。

お祭りなど伝統行事、文化や長い歴史で培われたつながりを受け継ぐ底力を持ちながら、大規模マンションが次々に建築され新たな住民が増え続けるという二面性を持つ中央区も、全国の多くの地域と同じく、地域コミュニティの担い手の減少化・高齢化という現状にあります。そうした課題に向き合い、まずは主体的に楽しみながら地域を盛り上げる「人」を育てることを

講座内容

コミュニティ・つながりの
重要性／塾生同士の自己
紹介・相互理解

中央区の地域コミュニティ
活動事例の紹介

人を惹きつけるイベントの
企画・運営・集客

組織マネジメントの基礎

地域コミュニティでの実践
に向けて



始めようという思いで、養成塾は企画されました。平成二十七年度の第一期から令和四年度の第八期まで、それぞれ約二十名の受講生がコミュニティのありたい姿を描き、様々なノウハウを学びながら実際の活動をその場で企画設計しました。二十代から七十代まで、町会の役員、マンション管理組合の理事、地域で活動するNPOのスタッフ、これから活動を始めてみたいと考えている人など、多彩な参加者が交流し協力しながら講座は進んでいきます。

養成塾の企画運営では、気をつけたポイントとしては三つあります。

て、受講生間の横のつながりを醸成する（有志での懇親会が何度もありました）。

① 知識やノウハウの「インプット」だけではなく、それぞれの企画づくりやグループワークを通した「アウトプット」を多く取り入れて、実践につなげる。

② 地域を思う担い手同士とし

③ 養成塾をやつただけ・参加しただけで終わらない継続性を持つための、相互の助け合いや交流の担い手ネットワークを立ち上げる。



養成塾の受講生、地域コミュニティの担い手たちの成果として、様々なことが実現し始めています。それぞれの町会や自治会での力強い活動、受講生同士での盆踊りグループの立ち上げ、町会・自治会・NPOの垣根を超えたコラボレーション、などなど。受講生の取り組みの現在は、次のページからいくつかインタビュー形式で取り上げています。

そして、その活動の継続をし続けていく中では、難しい壁にぶつかったり、モチベーションを失いかけたりすることも

あります。しかしネットワークの仲間たちとの横のつながりの中で、悩みを相談したり時に情報交換や協力をしながら、単純に居心地の良い楽しい時間を共有することで、勇気づけられる関係性が続いています。塾と言いながら、実は最も大切なのは「学ぶ」ことではなく「つながること」だつたように感じています。



受講者の感想

「さまざまな課題や想いを持った方が集っており、毎回のグループワークにて大いに触発されました。回を追ってもやもやしたものが明確化され、最終日にはやるべきことの骨子が固まり、現在はマンションでの実施に向け具体的な取組を行なっているところです。塾の同窓生でゆるく集まる活動も行なっており、人脈・触発は継続されています。」

「六回の講義やグループワークを通じ、各自の参加動機や疑問を共有したり関わり方を話し合うという機会を得られました。

時には、グループメンバーと授業の課題から脱線してお祭り談義に講じたりしましたが、いい出会いがありますので、多くの方にお勧めできる講座です。」

「引越しを機に自治会活動に携わる事になり、養成塾に参加しました。

報酬をインセンティブとしたマネージメントとは違う自治会・町会運営により適した具体的なマネージメント手法を体系的に学べます。

一方通行の受講スタイルではなく受講生同士のディスカッションを中心とした

講座なので、実例を共有しアイデアを出し合う過程で問題解決能力が磨かれます。自分の自治会でもすぐになりますので、様々なヒントを得ることができます。」

「講義+ワークショッピングの形で、コミュニケーションを取り巻く課題にどう対応するかを学ぶことができ、自分

の課題に対する計画作りまで行うことができました。

参加者間のネットワークが作れたのも大きな成果でぜひ参加して体感することをお薦めします。」

自分たちで自分たちの街を守る

～消防団で活動して～

担当手
インタビュー
①

七期受講生 志岐宣子さん
京橋消防団 団本部 部長



した。

私が所属している京橋消防団は団本部と七個分団で編成され約一五〇名の団員がいます。その内四十名近くが女性です。

エリアは京橋・八重洲・八丁堀・銀座・新富・湊・入船・明石町・築地・浜離宮庭園・新川でこの地域に居住・在勤・在学中の団員が各地域を担当しています。

エリアは京橋・八重洲・八丁堀・銀座・新富・

有償ボランティアとして

都内には九十八の消防団があつて約二万六千人の消防団員が各地域で活躍しています。消防団に入団すると、特別職の地方公務員になります。無償のボランティア活動だと思われがちですが、地域の活動や災害に出動すると都度手当が支給されます。また、震災・水災の各種態勢の発令、災害の発生状況などをメールで受信し、現地へ向かうというシステムです。消防団活動に必要な防火服や靴などは貸与されているので自宅に置いてあります。

消防団の活動は多岐に渡っていて、災害時出場の他にも地域のお祭り、銀座のパレード、東京マラソンなどイベント時の救急救護や消火準備、災害時には避難誘導・怪我人の応急処置や災害に備えた訓練（救助訓練、台風や集中豪雨に備えた水防訓練など）も行っています。

火事が起こった際には消防署が消火活動を感じもつと学ぶために、消防団に入団致しました。その後責任を私が研修を受けに行きました。その後責任を感じもつと学ぶために、消防団に入団致しま

過去に築地で火災が起こったときには、消防

団員もホースの筒先を持ち、懸命な消火活動を行いました。別の火災時に私は燃え上がる建物から次々に出入りする消防隊員に紙コップで飲み水を渡し続けました。

私は京橋消防団の広報編集委員会に所属していて、団報を作成、またホームページに活動ブログを掲載しています。団報は今まで市会や団員に配布されていましたが、今年から手に取りやすいサイズにリニューアルしましたので、今後は区役所や消防署・地域の協力店などにも置いていただく予定です。

ホームページは頻繁にブログを更新し活動報告をしておりますのでぜひ皆さんにご覧いただきたいです。

必要としてもらえる居場所

消防団を続けている理由は、まず必要としていただけることがあります。消防団の活動を通じて応急手当指導員の資格を取らせていただきました。京橋消防署管内の企業、小中学校や町会・銀座歩行者天国でのイベントなどで、応急手当の指導を消防協会や消防署員の方々と一緒に行っています。

消防団の活動はとても楽しいです。東京マラソンや銀座のパレードの際には警戒をしながら間近で見ることもできます。

勤続年数や出動回数に応じて昇進や表彰制度

があり励みにもなっています。私も毎年表彰状を頂いております。

地域コミニティの 担い手養成塾に参加して

養成塾に参加したきっかけは、消防署の団担当者から勧められたからです。参加して異業種の方々と集い、大変面白かったです。養成塾で学んだことの中印象に残っているのは「人を巻き込むこと」「メンバーに役割を与えること」「楽しいと伝えること」「あなた

がいるから助かっていると伝えること」などです。これはまさに消防団の活動そのものだと思いました。

私は周囲の友人知人をよく消防団にお誘いして入団いただいております。何より活動が楽しいですし、消防団の活動に参加することで消火器やAEDの使い方を人に教えられるようになります。また、ポンプ操法大会で選手をしたり、訓練や式典でアナウンスを担当したり、応急手当の講習をしたりとさまざまな役割を担っています。

人の役に立てて、知識や資格を取得でき、報酬もいただけるのが消防団です。

養成塾の同期生とその友人が京橋消防団に入団してくださいました。さらにこの輪を広げていきたいと思います。

女性消防団員をもっと増やしたい

消防団は性別・学歴・年齢（十八歳以上）・体格を問わず、一年中いつでも入団可能です。老若男女を問わない地域コミニティなのです。消防団の活動を通して近隣に助け合える仲間ができるで心強いです。

消防団では女性も募集しています。消防団員と言うと体力仕事が多いと思われるかもしれません、女性が活躍できる場面も多くあるからです。

大震災が来たら消防署だけでは間に合いませ



▶ AEDの普及イベント（銀座歩行者天国にて）



▶ 女性ポンプ操法大会（皇居にて）

ん。道路が分断され消防車が通れないかもしれませんし、あちこちで同時に火災が発生したり、大勢の怪我人が出るかもしれません。

その時に誰が自分たちの街を守るのか？ その日に備えて私たちが訓練をしています。

日々の訓練や学習がいつあるかわからない大震災や火災・水害に備え「自分たちの街は自分たちで守る」ことに繋がっています。これからも消防団がもっと身近なものになるように活動・広報していきたいです。

コロナ禍で 中央区観光協会 特派員に



スキルを活かしたいと思いました。外国人と話すボランティア等を探していたところ、「中央区観光検定」を知り二〇二一年一月に受検しました。「中央区観光協会観光おもてなしスタッフ」になるためでした。

観光検定に無事合格したところ、上位合格者で希望した人は「観光協会特派員」に登録できます。現在約一〇〇人が所属。実際にブログを書いているのは半数くらいでしょうか。

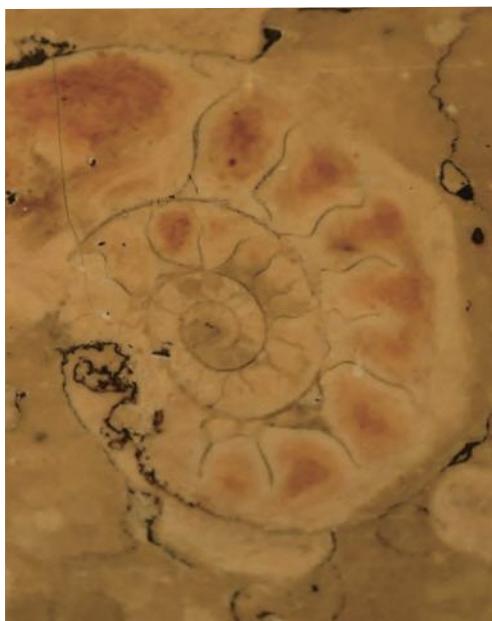


人形町の大観音寺（おおがんのんじ）横の路地裏。
左の階段を登ると走りの神様「葦駄天」が祀られています。

観光協会特派員としての活動は、自ら写真を撮ってブログを書くことです。私は「変わりゆく中央区の知られざる魅力」を伝えようしています。

夜景が好きで東京湾大華火祭が見られるマシンションに転居したことをきっかけに中央区在住一五年になります。外資系企業で営業をしています。

コロナ禍に入り会社から英語の勉強が推奨されました。一年間英語のマンツーマン講座を受講後に英語力が上がったため仕事以外に



変わりゆく中央区の 知られざる魅力を伝える

例えば、中央区には東京都内で一番長い地下道があるのをご存じでしょうか？歌舞伎座の下から銀座、日比谷を経由し八重洲地下街まで続く地下道です。また、日本橋三越本店の柱や壁面等には化石が一万個以上あると言われており、インフォメーションで化石マップをもらうことができます。大理石の中にあるアンモナイトを親子で探すのがおすすめです。

中央区は変わりゆく街。火事、地震、戦争を経て新しい街へ進化してきた歴史があります。今も新しい道路や橋ができています。そこで、路地裏シリーズと題して、月島、佃、

*日本橋三越本店内でも見ることができる化石（アンモナイト）

人形町、八重洲、築地場外市場の路地を写真と一緒に紹介した記事もあります。地域のイベントなども紹介しています。

小さい頃から身近だった

「旅行」・「外国」・「英語」

四歳の時にパリに半年住んでいたため、外國に対しても興味を持ちました。父が旅行と歴史が好きで、子供の頃は年に一回以上は日本中の旅行に連れて行ってくれました。新卒で入った会社は旅行会社。海外専門の添乗員として五年間様々な国を訪問しました。現在の会社に入つてからも仕事で外国に行くことが多いです。

また、子供の頃から作文が得意で、文章を書くのが好きです。特派員として自分が書いた文章がウェブ上に載るのは自分の作品を作っているような気持ちです。

特派員を始めて変わったこと

特派員を始めてからは、漠然と見ていた中央区の景色が記事になることに気づきました。イベント情報にも敏感になり、中央区内で活動する機会がとても増えています。

特派員と並行して東京都の観光ボランティ

アを二〇二一年四月から始めました。ボランティアで出会う人は、会議の運営がとても上手な方、資料の作り方がとても上手な方など、尊敬できる方が多く、ボランティア活動をやることが仕事にプラスになっていると感じます。また、新しい方と出会う時に自分を知つてもらうツールとして「特派員」のサイトは非常に役立ちます。仕事でお客さんにボランティアや特派員としての活動を話すと非常に盛り上がります。活動することで自己肯定感が上がっています。

地域コミュニティの

担い手養成塾に参加して得られたこと

特派員の活動を始めた年に地域コミュニティの担い手養成塾にも参加しました。

参加してよかつたのは、普段仕事では出会わないような方々と出会えたことです。八期は非常に仲が良く、講座が終わつた後も定期的に懇親会等で親睦を深めています。ご近所に住む皆さんと知り合いになれたことが非常によかったです。

中央区観光協会特派員　たけちゃんのブログ

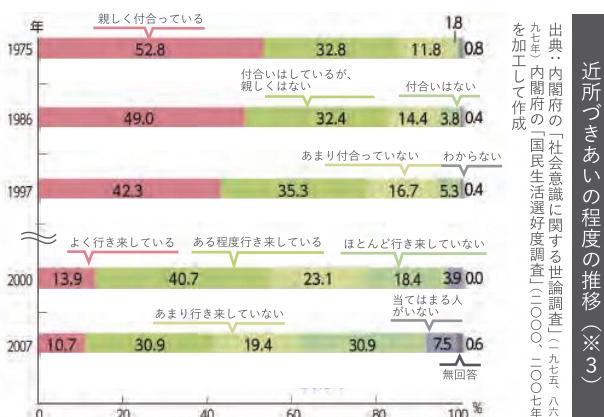
<https://tokuuhain.chuo-kanko.or.jp/?user=147>



コミュニティはなぜ大切か 地縁の進化の方向性

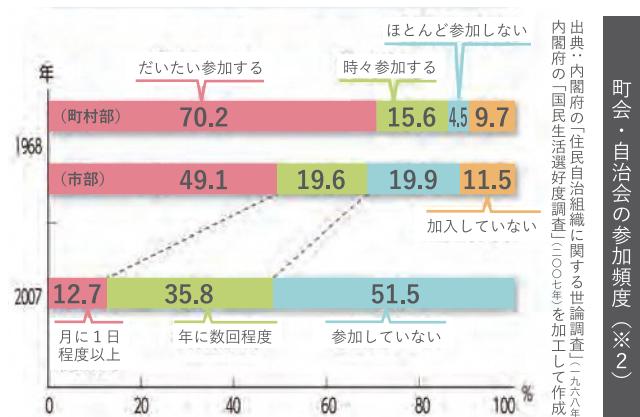
そもそも、「つながり」や「コミュニティ」はなぜ大切なのでしょうか。

日本の社会構造は戦後に大きく変化しました。都市部への人口の大移動が発生し、農村社会から産業社会へと移行し、日常の生活に関わるテクノロジーも劇的に進化しました。一方で、縁やつながりは大きく希薄化・弱体化し続けています。(※1)



「縁」には血縁・地縁・社縁などがありますが、特に「地縁」の弱体化は非常に顕著で町会・自治会への参加頻度や近所づきあいの程度の減少に現れています。(※2・3)

その要因については様々な議論がなされていますが、私は「便利になって人と関わらずに生活していくようになつた」とことと無関係ではないと考えています。かつて、地縁とは生活に不可欠なものでした。



孤立する個人が増え、孤独死、児童虐待、うつ、自殺といった社会課題は複雑化続けています。しかし、テクノロジーは良くない、昔に戻ろう、ということを言いたいのではありません。そうした時代の変化が背景にあるからこそ、「あたらしいコミュニティのあり方」が求められると言えています。

つながりやコミュニティは不要になつたから希薄化した

ムラ単位で支えあい、隣人と助けあいながら暮らす必要性があつた時代とは違い、現代社会では困つた時に「誰かに頼る」のではなく「お金を払つてサービスを受ける」ことが第一の選択肢です。移動や転居は容易になり、情報収集の手段に溢れ、ほしい物は家まで届けてもらうことが可能です。ひとりで生きていくことが可能になつてしまつた、血縁や地縁の強制力が弱体化した現代社会と言えるでしょう。

のではなく、むしろ人の健康や幸福にとって非常に重要なものであり、多くの研究によつて科学的に立証されています。(※4・5)



しかし、その強制力が薄れたら現代社会においては、多様な「選択縁」のひとつとして生まれ変わらざるを得ないのだと思します。

では、

そのようなあたらしい地縁を生み出す、地域コミュニティの運営者・担い手としてはどのように変化・進化すれば良いのでしょうか。

まだまだ試行錯誤・摸索中ですが、様々な地域に関わる中で、ヒントや糸口となるような要素は少しづつ見えてきました。担い手としては良

く

- ・やらされ感を持たれない、能動的に選べる役割や発言しやす

- ・ふと仲間の顔を見たくなる

- ・役員や運営メンバー同士の居心地の良い関係性をつくる

- ・そして何よりも、地域コミュニティの活動を「主体的に」「楽しんで」継続する担い手の存在が最も大切だと感じています。

- ・そして「地域コミュニティの担い手養成塾」を通して、思いの

- ・ある担い手は地域にまだまだいるという希望を持つことができました。これからも、みんなの背中を押せるような学び・気づき、モチベーションを継続できるようなつながりを生み出す、養成塾の運営を粘り強く続けていきたいと思っています。

- ・仕事や家庭の状況に合わせて活動できるような、多様な関わり方をデザインする
- ・楽しい・関わりたいと人を惹きつける、コミュニティの入り口となるイベントを企画する
- ・様々な団体・人との横のつながりを持ち、活動のコラボレーションを促進する

かつての地縁とは、生活に必要な不可欠で、それ無しでは暮らしが成り立たないからこそ「強制縁」として位置付けられ、家族

のための地域コミュニティの当たり前の存在でした。

情報収集や移動の手段が発達した現代だからこそ、数ある選択肢の中から「自分の求めるつながり」を能動的に探し出すことができる環境が求められます。家族や会社、学校だけではなく友人、NPO・ボランティア

ます。

NPO 法人 C.R. ファクトリー



未来につなぐ“都市型地縁” コミュニティの担い手の想い ⑦

第7号
令和5年 8月 発行
刊行物登録番号 5-037

[事業についてのお問い合わせ]
中央区区民部地域振興課 コミュニティ支援係
メール : tiiki_01@city.chuo.lg.jp
電話 : 03-3546-5337

[NPO 法人 CR ファクトリー]
ホームページ : <http://www.crfactory.com/>
メール : info@crfactory.com